

第3回 北九州港カーボンニュートラルポート（CNP）検討会 議事概要

日時：令和4年1月28日（金）14:00～16:00

場所：西日本総合展示場 新館 301-303会議室

開催形式：対面及びWebの併用

【議事概要】

（議事2-1：第2回CNP検討会の振り返り等）

事務局より、第2回検討会の振り返りと、第3回検討会での検討事項について説明し、確認を行った。

＜構成員＞

- ・ 第2回検討会にて構成員から水素の分類（グリーン水素、ブルー水素等）に関するご意見があったが、水素に限らず燃料アンモニアにも同様に分類があるので留意して頂きたい。

＜事務局＞

- ・ 承知した。

（議事2-2：民間における脱炭素化の取組）

第3回検討会から構成員として新たに参画して頂いた民間企業等より、脱炭素化に関する取組の事例についてご紹介頂いた。

（議事2-3：北九州港CNP形成計画（素案））

事務局より、「「カーボンニュートラルポート（CNP）形成計画」策定マニュアル（初版）」（国土交通省港湾局、2021年12月）に準じて作成した、「北九州港CNP形成計画（素案）」等について説明を行った。

＜構成員＞

- ・ 「4-2 温室効果ガス削減計画」に記載のメタネーションの取組について、メタネーションに使う熱源自身がCO₂を排出する場合は、その分CO₂排出量が上乘せされると思うが、北九州港CO₂排出量の推計値にはその点は考慮されているのか。また、メタネーションに利用するCO₂はどこから調達することを想定しているのか。

＜事務局＞

- ・ メタネーションに使う熱源から発生するCO₂排出量は考慮していない。また、各企業からは、CO₂の調達について現段階では具体的な計画は決まっておらず、基本的には北九州港内で発生するCO₂の活用を考えていると聞いている。北九州市としても北九州港内で発生するCO₂を活用して頂きたいと考えており、その場合は港内における更なるCO₂排出量の削減効果が見込まれる。

<構成員>

- ・ 「2-1 CNP 形成に向けた方針」に、「大規模な水素等の需要に備え、受入環境の整備を検討する」と記載されている。例えば、臨港地区に特区を設けて規制緩和を行うことや、水素・燃料アンモニア等の需要が多く見込まれる場合は公共主体で受入環境の整備を進める可能性があることを示されたら良いと感じた。

<事務局>

- ・ 規制緩和については、現時点で具体的な内容は決まっていないが、北九州市としても重要な事項であると認識している。「北九州港 CNP 形成計画（素案）」における記載内容については改めて検討させて頂き、構成員の皆様にお示ししたい。

<構成員>

- ・ 「5. 水素・燃料アンモニア等供給目標及び供給計画」に記載の北九州港の水素・燃料アンモニア等需要量については、各企業の脱炭素化の取組に必要な実需要量と、CO2 削減目標の達成に必要な将来の需要ポテンシャルの2種類で整理されている。将来の需要ポテンシャルは、現在の北九州港 CO2 排出量から、再エネ電力（洋上風力や太陽光など）や CCUS、グリーンカーボンなどによる CO2 削減効果を差し引き、それでも CO2 削減の目標値に足りない部分を CO2 フリーの水素で置き換えた値と理解すれば良いか。

<事務局>

- ・ 将来の需要ポテンシャルについては、今後、企業等が化石燃料由来の電力を再エネ由来の電力に切り替えることによる CO2 削減効果を差し引くべきものと考えているが、現段階では具体的な取組内容を把握できていないため、今回の推計では考慮できていない。また、CCUS については、北九州港の取組としてまだ顕在化していないこと、グリーンカーボンについては吸収量の検討が現段階ではできていないことから、今回の推計では考慮していない。

<構成員>

- ・ 「2-1 CNP 形成に向けた方針」に、「水素・燃料アンモニア等の二次輸送を行う供給拠点の形成を目指す」と記載があることを心強く感じている。北九州港は、水素エンジン船・水素燃料船等における水素の海上利用や LNG バンカリングに関する知見を有している構成員も多数いるため、水素バンカリングについても、方針の中に追記をお願いしたい。

<事務局>

- ・ 今回、企業からご発表頂いた北九州港における LNG バンカリングに関する取組事例を踏まえ、「4-2 温室効果ガス削減計画」に、LNG バンカリングの取組に関しても記載したいと考えている。また、将来的には北九州港において水素等のバンカリングも行われる可能性もあると認識しており、「北九州港 CNP 形成計画（素案）」の記載内容については検討させて頂きたい。

（議事 2-4：今後の進め方）

事務局より、3月下旬に「北九州港 CNP 形成計画（素案）」を公表する方針であること、令和4年度以降も引き続き検討会（もしくは協議会）を開催し、「北九州港 CNP 形成計画」の策定を行うことを説明した。

以上